

一瞬が 追しるべ



もり・やまと 2003年、北海道羅臼町生まれのシンガー・ソングライター、ギタリスト。16歳の時に英国で開催された「Young Guitarist of the Year 2019 powered by Ernie Ball」(16歳以下のエレキギターの世界大会)で優勝。高校在学中の21年にデジタルシングル「日日」でデビュー。今年4月に新曲「祝祭」を発表した。

主催 朝日新聞社 各都道府県高校野球連盟

うまくなりたい 朝から晩まで夢中だった

シンガー・ソングライター ギタリスト
もり・やまと
森大翔さん

僕の中で、高校野球のイメージは「音」です。例えば、カーン、とボールがバットにあたる瞬間の音。大会歌「栄冠は君に輝く」に、「空をきる たまのいのちに」という歌詞がありますが、音楽でたどり着きたい瞬間、そういう一瞬のきらめきを感じます。

今年夏の甲子園大会CMで大会歌をカバーしました。観客に大きなパワーを伝える高校野球と、周りを奮い立たせる「生命の躍動」のようなものを感じられるダンスミュージックは、重なるところがあります。

大会歌のギターアレンジではビートを強調して、野球を通じて心拍数が上がっていくような高鳴りみたいなものを感じてもらえたら、と思って演奏しました。

た。アルプス席の応援のように、大きな太鼓のイメージの音色も入れています。

CMで演奏に合わせて踊ってくれた大阪府立箕面高校ダンス部のみなさんのダンスの熱量もすごい。伝統的なジャンルのロックダンスとギターとの相性もぴったりで、そこに運命を感じました。唯一無二のアレンジになったと思います。

僕がギターを始めたのは小学6年の時。中学生になると、朝起きてギターを練習して、学校行って、帰ってきて練習して。モチベーションはユーチューブに自分の演奏を投稿することでした。好きなアーティストが新曲を出したら、世界中で誰よりも

早くコピーして弾こう、とか。

自然に囲まれた田舎ですとギターを弾いていて、何か新しい環境に飛び込みたかった。音楽について勉強できる高校があると聞いて、ふるさとの北海道羅臼町から車で6時間離れた札幌市内の高校へ進みました。

高校3年間は、ご飯を食べている時以外は、ギターを練習しているか、軽音楽部の友だちとバンド演奏しているか、音楽を聴いているか、という生活でした。当時は「今の自分より、明日にはもっと優れた自分になって、ギターがうまくなりたい」という気持ちでした。

高校1年の時に(16歳以下の)ギターの世界大会で優勝しました。離れてしまったふるさとへの郷愁をテーマに、自分のセン



チメンタルや、ふるさとを美しいと思える感情をギターで表現しました。それが言葉を越えて審査員の方から「一曲から物語が見えるよ」と評価してもらえたことが、うれしかったです。

高校生活を振り返ると、「当時の自分に感謝したい」です。あの頃の練習があるから、今の自分がある。朝から晩まで練習し続けるっていうのは、今もそ

うありたいと思うけど、なかなかできない。それほどギターに夢中になっていました。僕の人生の起点は、あの高校時代にあるような気がしています。

当時は一点に対する熱量や、一瞬の集中力がすごかった。数年後には僕がそうであったように、球児のみなさんも「高校時代のあの瞬間が、今の道しるべになっている」と感じていると思います。

僕は球児のみなさんをとてもしスベクト(尊敬)しています。自分以外の人が頑張っている姿は大きなパワーになる。だから「君たちは大きな力(見ている人に)分け与えてるんだぜ」と伝えたい。そのことを知って自信につなげてくれたらと思います。(構成 島脇健史、写真 西岡臣)